

ガラスびんに関する自主行動計画の2009年度フォローアップ結果

ガラスびんリサイクル促進協議会

【リデュース】

2010年度目標	2009年度取り組み実績
2004年(基準年)対比で2010年に1本当たりの重量を1.5%軽量化する。	<ul style="list-style-type: none"> ・基準年(2004年)対比で1本当たり1.8%の軽量化がはかられた。1本当たりの単純平均重量は基準年(2004年)の192.3gに対し、182.3gで5.2%(10.0g/本)の軽量化がはかられたが、これには容量構成比の変化が含まれているため、その要素を除いたネットの軽量化率は1.8%(3.5g/本)となる。 ・2009年に新たに軽量化された品目は、6品種16品目であり、軽量化重量は1,472トン。総重量に占める割合は0.12%であった。

【リユース】

2010年度目標	2009年度取り組み実績
リターナブルシステムの調査研究を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度環境省地域省エネ型リユースモデル事業として、居酒屋チェーン企業と連携して、約400店舗を対象としたPB清酒のリユース化事業の取り組みをおこなった。 ・量販店市場におけるリターナブルびん商品の取扱いや空びんの回収体制の可能性について、主要な量販店・びん商連合会と研究会を実施した。

【リサイクル】

2010年度目標	2009年度取り組み実績
<p>【カレット利用率】 エコロジーボトル(その他色カレット多量利用)の普及を図るなどして、カレット利用率91%を達成する。 リサイクル率70%以上に目標を変更。</p> <p>【リサイクル容易性向上】 ラベル、キャップ等に関して易リサイクル性の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2009年のリサイクル率は、68.0%(対前年+3.0%)となった。 ・従来再生材使用促進のために資源有効利用促進法で指定された「カレット利用率」は、所期の目標を達成できたため、今後は、原材料総投入量に占めるカレット(再生材)の使用割合を示す「カレット使用率」を採用することとした。カレット使用率は74.2%(対前年±0%)。 ・エコロジーボトルの出荷量は、108百万本となり前年に比べて2.6%増加した。 ・「化粧品びん」の分別収集促進活動は、日本容器包装リサイクル協会と連携しながら全国の自治体に呼び掛けた。 (2010年3月自治体実態アンケート調査:41.3%の自治体を実施)

【広報活動】

2010年度目標	2009年度取り組み実績
3Rを推進するための自主設計ガイドライン(ガラスびんの組成、質量、形状、ラベル、キャップ等に関する事項)を策定し、製造・利用事業者への周知・徹底を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ガラスびん3R総合パンフレットとして「ガラスびんBOOK」を制作(10,000部) ・ホームページの抜本的見直し並びにキッズページの刷新をはかった。 ・「ガラスびんの流れ(リユースとリサイクル)」ポスターを制作、配布。

【リデュース】

(1) 軽量化実績

- ・2009年に軽量化された主な品目は、6品種16品目（表1）であり、軽量化重量は1,472トン、総重量に占める割合は0.12%であった（表2）。
- ・軽量化効果が大きかった品目は、「たれ」。
- 軽量化重量は、1,032tであり、3品目で全体の70%を占めた。
- ・軽量化の捉え方は、前年と同容量で軽量化された品目について限定しており、容量変更が伴う場合や、新製品の軽量びんは対象外としている。

【表1】 2009年に軽量化された品目

品種	品目（ ）内は品目数
薬びん	広口びん（1）
食料品びん	ジャム（1）、粉末クリーム（1）
調味料びん	たれ（4）、調味料（3）
清酒びん	清酒中小びん（4）
その他洋雑酒びん	ワイン（1）
飲料びん	飲料（1）

【表2】 軽量化重量実績（2009年：単位 t）

軽量化重量合計	生産重量	軽量化率
1,472	1,213,075	0.12%

(2) 1本当たりの単純平均重量変化

- ・2009年の1本当たりの単純平均重量は182.3gとなり、前年の184.9gに比べて1.5%（2.6g/本）の軽量化がはかられている
- ・基準年（2004年）が192.3gに対し、182.3gで5.2%（10.0g/本）の軽量化がはかられた。（表3）
- 軽量化率5.2%には容量構成比の変化が含まれているため、これを除いたネットの軽量化率は1.8%（3.5g/本）であり、残りの3.4%（6.5g/本）は容量構成比の変化によるものである。
- ・軽量化要因としては、コーヒーを始めとする商品びんや調味料びん、酒類びん等の軽量化が寄与している。

【表3】 1本当たりの単純平均重量推移

	2004年 (基準年)	2005年	2006年	2007年	2008年
本数（千本）	7,262,950	7,218,336	7,158,306	7,049,797	6,846,912
重量（トン）	1,396,582	1,351,523	1,343,925	1,313,830	1,266,242
平均重量（g/本）	192.3	187.2	187.7	186.4	184.9

	2009年
本数（千本）	6,653,700
重量（トン）	1,213,075
平均重量（g/本）	182.3

(3) 既に軽量化された主な品目

平成12年から平成21年までに軽量化された品目

品種	のべ品目数
小びんドリンク	小びんドリンク（4）
薬びん	細口びん（1）、広口びん（1）
食料品びん	コーヒー（15）、ジャム（4）、粉末クリーム（2）
調味料びん	たれ（5）、酢（8）、ソース（1）、新みりん（1） つゆ（1）、調味料（6）、ドレッシング（7）
牛乳びん	牛乳（5）
清酒びん	清酒中小びん（5）
ビールびん	ビール（1）
ウイスキーびん	ウイスキー（4）
焼酎びん	焼酎（4）
その他洋雑酒びん	ワイン（5）
飲料びん	飲料ドリンク（1）、飲料（1）

【リユース】

- (1) 外食居酒屋チェーンにおけるリユースびん展開モデル事業への取組み
平成21年度環境省地域省エネ型リユースモデル事業として、居酒屋チェーン企業と連携して、約400店舗を対象としたPB清酒のリユース化事業の取組みをおこなった。
- (2) 量販市場研究会
量販店市場におけるリターナブルびん商品の取扱いや空びんの回収体制の可能性について、主要な量販店・びん商連合会と研究会を実施した。
- (3) リターナブルびん もっと知ろうよ！大作戦（シンポジウム）の展開
東京（7月）・京都（9月）・仙台（10月）・名古屋（11月）・福岡（2010年2月）に地域の行政・NPO・企業が参画してリターナブルびん促進に向けたシンポジウムを実施。

【リサイクル】

ガラスびんのリサイクル(回収・再資源化)状況をあらわす指標を、よりわかりやすかつ重要と思われる指標に変更した。(定義は、右図参照)

リサイクル率、カレット使用率(原材料総投入量に占めるカレット(再生材)の使用割合)、びん to びん率(ガラスびんのリサイクル総量におけるびんにリサイクルされた比率)の3指標で報告をおこなう。

【直近3ヶ年のリサイクル指標の動向】

- リサイクル率(平成19年～21年)
63.9% ⇒ 65.0% ⇒ 68.0% (対前年+3.0%)
(参考)基準年:2004年 59.3%
- カレット使用率
72.7% ⇒ 74.2% ⇒ 74.2% (対前年±0.0%)
- びん to びん率
86.3% ⇒ 87.6% ⇒ 82.3% (▲5.3%)

リサイクル率とは

分母:出荷量+輸入量-輸出量=国内消費量

分子:再生利用目的で、ガラスびん製造メーカーや
その他利用事業者に引渡されたカレット総重量

カレット使用率とは

分母:原材料総投入量(カレット総量+バージン資源量)

分子:びん製造工場での溶解窯へのカレット総投入量
(市中回収カレット+工場内発生カレット)

びん to びん率とは

分母:再生利用目的で、ガラスびん製造メーカーや

その他利用事業者に引渡されたカレット総重量
分子:びんを製造する目的で引渡されたカレット総重量

【広報活動】

ガラスびん3R総合パンフレットとして「ガラスびんBOOK」を制作(2009年 10,000部)し、3R啓発ツールとして展開した。

ホームページにおいては、キッズサイトの抜本的な改善と消費者・自治体に向けて、当協会からの情報発信性の高いコンテンツに改良し、より連携してガラスびんの3Rを推進できる仕組みづくりに取り組んでいる。

またガラスびんリサイクル・ポスターコンクール企画の立上げをおこない、小中学生に対する環境教育の一環として、ガラスびんリサイクルの啓発に着手した。